

国立競技場

2013. **3**・**4**
Vol.596



Cheer! NIPPON



**SPORTS JAPAN
アンバサダー任命式**



金賞「ゴールへ」

スポーツ博物館

展示 (冬期)

「全国スポーツ写真コンクール2012」展を開催



国立登山研修所
積雪調査

NEPTUNE STADIUM



Cheer! NIPPON



2012年12月25日、クリスマスの日、Cheer! NIPPONによるスペシャルイベントが開催されました。Cheer! NIPPONとは、「スポーツコミュニティ文化の創造・展開」「復興支援」「東京オリンピック・パラリンピック」をテーマに、大歓声を沸かしてニッポンを元気にしていこうというムーブメントです。このクリスマスイベントは、スポーツをテーマにしたシンポジウムと子供たちが参加できるスポーツ体験イベントを日中に行い、夜にはチャリティマッチを行うという1DAYイベントです。多くの世代がスポーツを通じて相互にコミュニケーションが図れる新しい形の試みと言えます。日本スポーツ振興センター（JAPAN SPORT COUNCIL）は、この理念に賛同し、協賛の形で協力しました。

国立競技場、秩父宮ラグビー場、明治神宮外苑軟式グラウンドの各会場で様々な催し物が行われ、スポーツ色の一日になりました。

東京スポーツサミット

最初に開催されたのが「東京スポーツサミット」。このサミットは、為末大さんの呼びかけにより、アスリートやスポーツ関係者（朝原宣治さん、朝日健太郎さんなど）が国立競技場大会議室に集まり、スポーツにかかわるすべての人々と社会のために、新しいスポーツ文化を作ることを中心にディスカッションを行いました。

午後には、同会場で特別シンポジウム「スポーツとコミュニティの創発にむけて」を開催。川淵三郎さん、柳本昌一さん、古田敦也さんなどをパネラーとして、スポーツの現場、アスリートの視点から、スポーツを活用した地域・コミュニティの可能性について活発な意見交換が行われました。会場も満員となり、参加者の熱気が伝わる有意義なシンポジウムになりました。



シンポジウムの様子



聖火点灯

開会式

シンポジウムの後、国立競技場陸上トラックで Cheer! NIPPON 開会式が行われました。スポーツ体験イベントに参加する子供たちが、1964年の東京オリンピック開会式をモチーフに、誇らしく入場行進します。整列を終えた後、ロンドンオリンピック・パラリンピック競技大会で活躍したオリンピック、パラリンピアンが聖火を走りつなげ、最終ランナーが聖火台に向けて階段を駆け上ります。聖火台に火が灯された瞬間、子供たちから大きな歓声が上がりました。

開会式には、川淵三郎さん、王貞治さんも出席され、体験イベントを前に、子供たちに激励の言葉をかけました。開会挨拶では、Cheer! NIPPON 実行委員会事務総長の鈴木寛さんから「東京でオリンピックを見たいですか？」の問いかけに、たくさんの子供たちが元気よく手を上げていました。

スポーツ体験イベント

開会式の後、各会場では多くのスポーツ体験イベントが行われました。このイベントには、東日本大震災復興の願いを込め、被災地からも子供たち（福島県、陸前高田市の小中学生など）を招待し、国立競技場では陸上トラックだけでなくコンコースや併設される体育館も使い、陸上や卓球、ボクシングに至るまで、オリンピック・パラリンピアンからの直接指導のもと、子供たちは目を輝かせながらめいっぱい身体を動かして楽しんでいました。

秩父宮ラグビー場では、ラグビーとサッカーが行われました。こちらでも、JAPAN SPORT COUNCIL の SPORTS JAPAN アンバサダーを務める大畑大介さんや、サッカー女子元日

本代表の川上直子さんをはじめとした元トップアスリートの方々が子供たちを直接指導。サッカーでは、通常のサッカーと併せてブラインドサッカーが取り入れられ、アイマスクをした子供たちががむしゃらに取り組んでいました。最初はなかなかうまくいきませんでしたでしたが、指導者のアドバイスや試行錯誤の後、徐々に上手になっていくことでスポーツを通じて努力することの楽しさを体感していた様子でした。



ボクシング、ラグビーの指導を受ける参加者の子供たち

「絆リレー」「ありがとう交換」

Cheer! NIPPON を象徴するイベントとして、1,000名参加の「絆リレー」と「ありがとう交換」が行われました。

絆リレーは、王貞治さんのスタートの合図と共に、各イベント参加の子供たちと、オリンピック、パラリンピアン（1964年東京～2020年世代）がバトンをつなぐ混合リレー。まさに、各世代が「絆」を繋ぎ合います。小さな子供たちの精一杯の走り、義足ランナーや車椅子ランナーのパワフルさ、体操選手の側転宙返りなど、個性豊かなリレーで盛り上がり、このリレーを通じて来場の皆様にスポーツの力、価値が発信されました。

「ありがとう交換」は、アスリートとファンとが感謝を伝えるセレモニー。まさに Cheer! NIPPON の基本理念を具体化したもので、アスリート達の魂がこもった言葉が国立競技場に響き渡りました。

東日本大震災支援チャリティマッチ

19時から、メインイベントとして澤穂希選手が発起人の「東日本大震災支援チャリティマッチ『SAWA and Friends, X'mas Night 2012』」が開催されました。近年躍進を遂げる日本女子サッカー。前半の45分は、成長著しい2020 Future Dream（20歳以下女子チーム）と2012 Memories（21歳以上女子チーム）との対戦。後半には、往年のスター選手（ラモス瑠偉さん、松木安太郎さんなど）を揃えた Legend Players（男子OBチーム）と前半出場的女子チーム全選手で構成した SAWA and Friends（女子オールスターチーム）が夢の対戦を果たします。Legend Players は、スタミナでは劣るものの、足元の確かな技術が光り、JAPAN SPORT COUNCIL の JAPAN SPORTS アンバサダーである北澤豪さんがゴールを決めるなど、試合を盛り上げました。試合後には、参加選手で場内を一周し、スタンドに向けて東日本大震災復興支援に向けた思いを伝えました。



Legend Players vs SAWA and Friends

国立競技場と秩父宮ラグビー場は、日本スポーツ界におけるレガシーです。今回、両会場が最大限活用され、この施設を保有する JAPAN SPORT COUNCIL としても、子供たちから大人まで広い世代に向けて「スポーツの力」を広く発信し、Cheer! NIPPON の理念である「スポーツコミュニティ文化の創造・展開」「復興支援」「東京オリンピック・パラリンピック招致」の盛り上げに貢献できたのではないかと思います。

今年は、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会開催都市決定の年。Cheer! NIPPON は、招致に向けた活動の一つのシンボルでもあります。今後、JAPAN SPORT COUNCIL としても、このような活動に一層貢献できるよう取り組んでまいります。

第10回 主要スタジアム情報交換会

ワールドカップから10年を振り返って



情報交換会の様子

開催日 2013年
1月22日(火)～23日(水)

毎年、全国のスタジアムの運営や管理、芝生従事者が集まる、「主要スタジアム情報交換会」。今回で10回目を迎え、50施設、総勢149名が集まり、この情報交換会を開催してから最大の参加施設・参加者数となりました。

1日目

■ 基調講演 (東京都サッカー協会会長 上野二三一氏)

「サッカーピッチを増やすには」というテーマで、現在のサッカー人口やサッカー場の不足、普及事業について講演いただきました。年々減少する子供の人口に対し、サッカー人口は、Jリーグ発足や2002FIFAワールドカップの影響もあり、増加しています。それに伴いサッカー場は増加したかというところでもなく、限られた施設に集中して利用しているのが現状です。そこで、多くのサッカー場を増やすために、(公財)日本サッカー協会は、9年間に亘り全国50施設に対して助成を行っております。また(公財)東京都サッカー協会でも、施設要件を満たす場所が確保できれば、フットボールセンター整備の助成を行うとのことでした。



上野二三一氏

このように自治体とサッカー協会が協力し、今後さらにサッカー場の充実を図りたいというお話をいただきました。

■ 第1分科会 (芝生管理部門)

2002FIFAワールドカップ開催から10年、そのピッチ管理の変遷と将来の課題

当日を迎えるにあたり、2002FIFAワールドカップ開催スタジアムの芝生管理者へ事前にアンケートを行いました。全国のスタジアムにおける今後の管理方法への先導役として、ワールドカップ開催から現在までの整備状況、芝生管理の変遷、大規模な芝生替えのタイミング時期をどのよう

に見極めたかなどをまとめていただき、それをういてディスカッションしました。

また、芝生管理アドバイザーとして、明治大学農学部教授の輿水肇氏にもご出席をお願いしました。芝生の全面張替えの際の排水設備や病害虫への対応方法、大会利用での芝生の損傷状況とその対策など、芝生管理がどのように変遷していったかというお話をされ、全国のスタジアムが参考となるような内容が議題に上がりました。



第一分科会の様子

■ 第2分科会 (運営管理部門)

Jリーグ発足から20年、2002FIFAワールドカップから10年、スタジアムの変遷を辿る

第2分科会では、上記テーマのとおり2012年が日本サッカー界にとって節目の年と位置づけられることから、国立競技場職員の鈴木絵理子が、プロリーグ設立準備から現在までの変遷を「Jリーグ平均入場数」「各ワールドカップの特長」「スタジアムへ影響を与えた社会情勢」などの観点か

ら発表しました。

それらの背景を踏まえ、埼玉スタジアム2002の船越良氏と日産スタジアムの甲斐啓太氏に、「2002FIFAワールドカップ前後の施設改修」「観客サービス」「Jリーグクラブとの連携」「施設利用向上の取り組み」等について、データを交え具体的に発表いただき有意義な講演となりました。

また、特別講演として日本大学工学部上席客員研究員の矢野裕芳氏に、大規模スタジアムにおける開催種目の変遷、施設改修の特性、今後の課題や展望について、お話をいただきました。



埼玉スタジアム2002
船越良氏



日産スタジアム
甲斐啓太氏



日本大学工学部
矢野裕芳氏

2日目

■ 施設見学

～日産スタジアム～

2日目は、日本でも有数の大規模スタジアムである日産スタジアムを見学しました。観客数72,327人、7階建、第1種公認全天候型トラックと天然芝ピッチを所有する

ビッグスタジアムでは、現在トラックの塗装工事を行っており、貴重な現場を拝見することもできました。また、第2分科会にて紹介した施設改修面についても、実際に施設を見ることで参考にできるかのイメージが沸きやすく、参加者は熱心に見学していました。



除雪した雪が残る中でのトラック塗装工事状況



日産スタジアムのピッチへ

■ おわりに

競技場数の増加や指定管理者制度の導入により、稼働率や集客数を上げる運営努力をしなければならぬ中、芝生管理では、ピッチのコンディション向上が常に求められています。整備時間が確保できない状況で、いかに効率よく管理できるかを模索しています。今回開催した情報交換会の参加者数が増加したのは、そのような背景やその他様々な問題を抱えているスタジアムが多いために、情報収集・情報交換の必要性を感じ、参加しているからではないかと推測されます。全国のスタジアムの運営部門と芝生管理部門が一堂に会する会議は、国内ではこの情報交換会くらいではないでしょうか。この貴重な会議を開催することができるのは、やはり日本スポーツ振興センターならではであり、今後もこの会を継続していくことが、スポーツ施設の充実と向上、底上げに繋がる大事なミッションであると確信しています。

JAPAN SPORT COUNCIL SPORTS JAPAN アンバサダーのご紹介



谷本氏



北澤氏



朝原氏



柴田氏



大日方氏



大畑氏

■ SPORTS JAPAN アンバサダーとは
日本スポーツ振興センター（JAPAN SPORT COUNCIL）では、「SPORTS JAPAN」の理念（スポーツに、もっと出会える国へ。もっと勇気もらえる国へ。みんながスポーツで笑顔になれる、そんなニッポンをつくろう。）を広く国民に訴求するメッセンジャーとして、また、JAPAN SPORT COUNCIL と一緒にスポーツを通じて日本の「信頼」「規範」「ネットワーク（絆）」（＝「ソーシャルキャピタル」）の構築を推進するパートナーとして、SPORTS JAPAN アンバサダーを任命しています。

現在（1月末時点）6名のアンバサダーを任命し、JAPAN SPORT COUNCIL 各事業の広報活動への協力、主催するイベントへの参加など、様々な活動をしていただいています。

※各アンバサダーのプロフィールや詳しい活動内容については Web サイトをご覧ください。
<http://www.jpnnsport.go.jp/Portals/0/ambassador/>

■大畑大介さん任命式

2012年12月20日、6人目となるアンバサダーに元ラグビー日本代表の大畑大介さんを任命しました。

大畑さんは日本ラグビー界の中心選手として活躍し、ワールドカップに2度も出場された実績の持ち主です。

大畑さんは、「自分がスポーツを通じて経験した、スポーツの持つ計り知れない力を、たくさんの方に伝えていきたいと考えています。みなさんがスポーツを楽しむことができるコミュニティが全国にできれば、きっと日本は元気になると思います。また、2019年ラグビーワールドカップが新国立競技場で開催される予定です。日本の素晴らしさを世界に発信できる絶好の機会だと思います。開催に向けて、まずは日本のみなさんに知ってもらい、そして盛り上げていくためにも SPORTS JAPAN アンバサダーとして様々な活動をしていきたいです。」と、意気込みを語られました。



任命式

2012 毎日スポーツ人賞表彰式

2012年12月18日（火）、都内ホテルで「毎日スポーツ人賞」表彰式が行われ、「文化賞」に「味の素ナショナルトレーニングセンター」が選ばれました。施設としては史上初のことだそうです。

表彰は、施設運用者である（公財）日本オリンピック委員会（JOC）と日本スポーツ振興センター（JAPAN SPORT COUNCIL）の共同受賞という形となりました。

なお、2012年グランプリにはレスリングの伊調馨さんと吉田沙保里さん、個人賞に柔道の松本薫さんとボクシングの村田諒太さん、団体賞にロンドンパラリンピック・ゴールボール女子日本チームとロンドンオリンピック卓球女子団体日本チームが選出されました。



表彰される河野理事長とJOC 竹田会長

毎日スポーツ人賞とは

1993年より毎年スポーツ選手・団体を対象に受賞者が選出され、過去にはイチロー選手や北島康介選手、去年はサッカー女子ワールドカップドイツ大会日本代表チームがグランプリに選ばれるなどしています。毎日スポーツ人賞は、もと



発表時会場スクリーンに映し出された映像

業として1993年に創設され、主に競技の成績が受賞の基準とされてきましたが、2011年度から社会貢献、文化の発展など、スポーツの幅広い分野を対象として、受賞者が選出されるようになったようです。

受賞の理由

受賞の理由として、毎日新聞 Web サイトでは次のように紹介されました。

「ロンドン五輪で日本は史上最多のメダル38個を獲得した。選手個々の努力はもちろんだが、味の素ナショナルトレーニングセンターなど、強化施設の充実も大きな力となった。東京都北区にあり、隣接の国立スポーツ科学センターとともに強化の拠点になっている。トレーニングの場所としてだけでなく、研修や情報交換の場としても活用され、食堂では栄養管理や指導もできる。」

表彰式においても、審査委員代表の瀬古利彦氏の講評の中で、「ロンドンオリンピック日本選手団を心身ともにサポートし、メダル獲得に大きく貢献した。特にマイナー競技と呼ばれるアーチェリー、フェンシング等の躍進を陰で支えた。」とのお話をいただきました。

今後もこれに満足することなく、JAPAN SPORT COUNCIL は、JOC や各競技団体が実施する活動がスムーズに行える充分な環境を整え、また、隣接する国立スポーツ科学センターと連携を取りながら、ナショナルレベルのトレーニング施設の中核拠点としての役割を担ってまいります。

スポーツ博物館 スポーツ博物館の展示（冬期）

スポーツ博物館では、企画展として「全国スポーツ写真コンクール2012」展を開催しています。

この「全国スポーツ写真コンクール2012」は、昨年秋に岐阜県で行われた、「ぎふ清流国体」の文化プログラムとして開催されました。

国民体育大会（国体）では毎年、種目競技の他に文化プログラムが実施されています。文化プログラムは、開催都道府県の魅力とスポーツの素晴らしさを文化面から伝えるとともに、競技に出場しない方も国体に参加できる行事です。スポーツ写真コンクールも日本スポーツ芸術協会の主催で、毎年、国体の文化プログラムの一環として行われています。

入賞作品は国体会場で展示され、国体終了後は毎年、秩父宮記念スポーツ博物館の企画展示のひとつとして、作品を紹介しています。

今年も、スポーツの持つ魅力を様々な角度から切り取った、躍動感あふれる作品やユーモアが感じられる作品など素晴らしい作品が揃いました。プロの写真家とはひと味違う、アマチュアならではの斬新さをお楽しみください。



金賞作品「ゴールへ」

展示期間は2013年1月18日（金）から3月29日（金）まで。金、銀、銅賞に輝いた作品はエントランスに展示しています。全国優秀賞に選ばれた作品は、2階の展示コーナーにて、展示期間中に入れ替え展示を行います。



金・銀・銅賞に輝いた6作品



全国優秀賞の展示コーナー

国立登山研修所 積雪調査

国立登山研修所は、今季の冬山シーズンの積雪調査（第1回）を2013年1月8日（火）に実施しました。積雪調査は、2010年から年間約10回実施しています。積雪調査の目的は、積雪内部構造を調査し、雪崩が発生しやすい弱層などを事前に把握したり、他の場所のデータと比較検討して周辺山域の積雪状況を推測したりすることにより、研修会や立山山域の登山者の雪崩事故を未然に防ぐことです。

調査は、立山山麓スキー場上部（標高1,100m）の定点でピット（全積雪断面）を掘り、温度計やルーペなどを利用し、10cm毎の雪温と雪質を調べる積雪断面観察と積雪層に衝撃を与えて不安定な層を見つける弱層テストを行っています。

現在までの調査で降雪時の気温や日照によって表面雪温が高くなるなど積雪層に急激な温度変化が見られる時に弱層が生じやすいことが検証されました。

なお、2003年から国立登山研修所内（標高480m）の



積雪調査用具

詳細な積雪深観測を開始し、2009年には、大日岳への稜線上の冬山前進基地（標高1,300m）において積雪深と気温の自動計測及びデータ通信を開始しました。これは、これまで未知だった標高1,500m付近の気象条件をリアルタイムにモニターできるようにする試みで、得られたデータは研修会での行動判断に活用しているとともに、年間でもとめて国立登山研修所定期刊行物「登山研修」で公表し、安全登山のためのデータとして活用されています。



積雪断面観察

国立競技場

サッカー

Jリーグディビジョン1第2節
川崎フロンターレ vs 大分トリニータ (3/9)

代々木第一体育館

ファッション
イベント第16回東京ガールズコレクション2013
SPRING/SUMMER (3/2)

コンサート

Kim Hyun Joong Japan Tour 2013 "UNLIMITED"
(3/3)

コンサート

V6 LIVE TOUR 2013 Oh! My! Goodness! (3/9-10)

フットサル

PUMA CUP 2013
第18回全日本フットサル選手権大会 (3/15-17)ファッション
イベント

TOKYO RUNWAY 2013 SPRING/SUMMER (3/20)

ファッション
イベント

Girls Award 2013 SPRING/SUMMER (3/23)

コンサート

Kanayan Tour 2013 ~ SPRING ~ (3/26)

バスケット

「東日本大震災」被災地復興支援
第44回全国ミニバスケットボール大会 (3/28-30)フィギュア
スケートISU WORLD TEAM TROPHY 2013
世界フィギュアスケート国別対抗戦2013 (4/11-14)

コンサート

V6 LIVE TOUR 2013
Oh! My! Goodness! (4/19-21)

コンサート

A.B.C-Z 全国 TOUR 2013 (4/28-29)

代々木第二体育館

バスケット

第14回Wリーグセミファイナル (3/3,5)
(3/5は前試合までの結果により開催されない場合があります)

バスケット

JBL2012-2013 (3/8~9, 15~16, 23~24)

バスケット

第14回Wリーグファイナル (3/17, 19, 21)
(3/19, 21は前試合までに優勝が確定した場合は開催されません)

バスケット

「東日本大震災」被災地復興支援
第44回全国ミニバスケットボール大会 (3/28~30)

バスケット

JBL2012-2013 プレーオフセミファイナル (4/6~7, 9)
(4/6~7, 9は前試合までの結果により開催されない場合があります)

バスケット

JBL2012-2013 プレーオフファイナル (4/17~18, 20~22)
(4/21, 22は前試合までに優勝が確定した場合は開催されません)

秩父宮ラグビー場

ラグビー

HSBC セブンズワールドシリーズ 東京セブンズ2013
予選 (3/30)
決勝 (3/31)

味の素フィールド西が丘

サッカー

関東女子大学東西対抗戦 (3/2)

サッカー

イギョラ杯 (3/21)

サッカー

全国シニア(O-50)選手権都大会 (3/31)

サッカー

関東大学サッカーリーグ (4/6, 13)



FOR ALL SPORTS OF JAPAN



当たりたなら買うしかない！好評販売中！

●スケジュールは変更になる場合がありますので、ウェブサイト等で必ずご確認ください。●
【ドメインの変更のお知らせ】

2013年1月からウェブサイトのURLが変更となりましたのでご注意ください。http://www.jpnsport.go.jp

国立競技場 (☎ 03-3403-1151) 国立代々木競技場 (☎ 03-3468-1171)

秩父宮ラグビー場 (☎ 03-3401-3881)

味の素フィールド西が丘 (スポーツ科学センター) (☎ 03-5963-0203)

編集後記

3月になりました。木々の梢には春の兆しが見られ、長かった冬も過ぎ去ろうとしています。それでも浅春の気候は気まぐれで、まだまだ寒い日もありますが、うららかな小春日和が訪れると気持ちも一新。外に出かけたくなりますよね。そこで散歩のススメです。冬の間に蓄えた脂肪をウォーキングで燃焼しましょう。国立競技場の周辺は散歩コースにうってつけです。明治神宮外苑は「都会のオアシス」と呼ばれるほど豊かな自然があります。明治神宮外苑をぐるっとひとまわりしてみれば、あなただけの春が見つかるかもしれません。春探しの散策の後は、競技場内の見学スポット、秩父宮スポーツ博物館に是非お立ち寄りください。競技場の行事のない日には博物館見学に併せて競技場をスタンドから見学できますよ (I)。

国立競技場 第596号

2013年3月1日発行 (隔月発行)

●編集・発行

独立行政法人日本スポーツ振興センター 広報室

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10番1号

tel 03-5410-9121

※2012年10月1日より発行部署が変わりました。

●編集協力 株式会社ジャニス



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。